

道のありがたみ

白百合学園高等学校 三年 石川 桜妃

「道のありがたみを知っている者は、道のないところを歩いた者だけだ。」これは、日本人の登山家である大島亮吉さんの言葉だ。初めてこの言葉を聞いたとき、私は漠然とそういうものなのかとしか思わなかった。しかし、新型コロナウイルスが感染拡大している今、私はこの言葉の意味を実感している。新型コロナウイルスは今まで当たり前であったことを、当たり前ではなくしてしまった。私達は今、初めて道のないところを歩き、道のありがたみに気がつきつつある。

今回の新型コロナウイルスの感染拡大は私達の生活に大きな影響を与えた。学校や会社が休みになり、オンライン授業やテレワークに変わった。海外への渡航が制限され、今年開催される予定だったオリンピックも延期された。高校生である私にとって最も身近な影響は休校になったことだったが、これはもちろん私にとって初めての経験だった。私は今までに、毎日学校に行って勉強できることは幸せだと言われたことがある。確かに世界には学校に通えない子供がたくさんいて、自分の暮らしている環境は幸せなのだろうと思うことはあったが、あまり深く実感したことはなかった。しかし、今回初めて学校に行きたくても行けないという状況を経験し、学校に通えることのありがたみを実感した。また、今年は多くの学校行事も中止になった。毎年当たり前に行っていたことが、どれほど大切なことであったかに改めて気がついた。まさしく道のないところを歩いて初めて、道のありがたみを知ったのである。

私達は今、道のないところを歩いている。しかし、私達が歩いているところには、本当に道はないのだろうか。人類の歴史は感染症との戦いの歴史でもある。人類は今まで多くの感染症に向き合ってきた。中でも有名な感染症であるコレラは世界中で多くの死者を出した。おそらく、当時の人々も現在の私達のように日常が大きく変わり、苦労したことが多かっただろう。それこそ、道のないところを歩いていたと思う。しかし、そのコレラによって今があるといっても過言ではないと思う。コレラの感染拡大があったからこそ、世界中で上下水道が整備され、ごみ箱が普及した。また、多くの国で公衆衛生政策が発展した。コレラは確かに多くの死者を出し

たが、同時に新しい道を作り上げたのだ。コレラが新しい道を作ることができたのなら、私達もまた、今回の新型コロナウイルスの感染拡大を通して道のないところに新しい道を作り出せるのではないだろうか。例えば、今回の感染拡大ではオンライン授業やテレワークが広まった。これらもいずれは、当たり前のことになり、新型コロナウイルスがきっかけで広まったものと言われるようになるかもしれない。また、これから先、新たな感染症が広がったとき、今回の感染防止対策が参考にされることもあるだろう。その時、この道があって良かったと思われてほしい。そして、私達がそのような道を作り出しているのならば、今私達が踏みしめているのは道のないところではなく、私達が作った新たな道になると思う。

今回の新型コロナウイルスで新たな道を作り出しているのは、医療従事者も同じである。新型コロナウイルスに関しては、治療法が確立しておらず、手探りで治療を行っている。私がお話を伺った医師は、このことを「新たな道の開拓」と表していた。非常に大変ではあるが、医師としてのやりがいをそこに強く感じているようだ。そして、この経験はこれから先とても役に立つだろうし、治療法が確立しているありがたみを知ることができ、経験できて良かったと仰っていた。

私達は新型コロナウイルスが広がっている世界という道のないところを今歩いている。そして、そこを歩いて初めて分かる道のありがたみを知ることができた。さらに私達は、道のないところに新たな道を作り出しつつ一歩一歩前に進んでいる。すぐには、きれいに舗装された道のような、新しい当たり前は作り出せないかもしれない。今は、草をかき分けて少し土をならしたような簡素な道だろう。しかし、過去の感染症からも分かるように、この道はいずれ舗装された誰もが歩く道になっていくのだと思う。私達もそのような道を作っていきたい。